

## 6. 目標値と期待される効果

本計画によるまちづくりの進捗を把握し、また、見直しの検討材料となる目標値と期待される定量的な効果を設定します。

なお、目標値の設定は、立地適正化計画制度の対象となる居住誘導区域、都市拠点と文化交流拠点に設定する都市機能誘導区域、拠点を結ぶネットワークを対象とします。

### (1) 定量的な目標値

#### ① 居住誘導区域の目標値

- ・都市機能や居住の誘導効果により、「市街地の住みやすい場所にインフラや公共施設などが充足したコンパクトな居住地が形成されている」ことを、「人口密度」により把握します。
- ・具体的には、人口減少が進む中においても、居住誘導区域内の人口密度を、維持することを目標とします。

	現況値 2015 (H27) 年	目標値 2030 (H42) 年
人口密度 (人/ha)	57	57

#### ② 都市機能誘導区域（都市拠点）の目標値

- ・都市機能の誘導やまちなか居住の推進効果により、「高次都市機能の集積と、まちなか居住が進み、にぎわいのある市街地が形成されている」ことを、「歩行者交通量」により把握します。
- ・具体的には、都市機能誘導区域において設定する調査箇所（8箇所、8時～20時までの12時間）での歩行者通行量の増加を目標とします。

	現況値 2017 (H29) 年	目標値 2030 (H42) 年
歩行者通行量 (人/12時間)	12,384	13,300

### ③都市機能誘導区域（文化交流拠点）の目標値

- ・都市機能の誘導やまちなか居住の推進効果により、「いつも人が回遊する、暮らしに便利な機能を満たした市街地が形成されている」ことを、「文化施設である市民会館ホール、岡出山図書館、郷土博物館・文学館、生涯学習センターの1日当たりの利用者数」により把握します。
- ・具体的には、上記主要施設の日当たり利用者数の増加を目標とします。

	現況値 2014 (H26) 年	目標値 2030 (H42) 年
文化施設の利用者数 (人/年)	4 5 7, 3 9 6	5 1 0, 0 0 0
(人/日)	(1, 3 8 2)	(1, 5 5 6)

### ④ネットワークの目標値

- ・都市機能や居住の誘導効果により、「速達性・定時制・利便性の確保された公共交通網が形成されている」ことを、「路線バスと乗合タクシーの利用者数」により把握します。
- ・具体的には、年間の路線バスと乗合タクシーの利用者数の維持を目標とします。

	現況値 2015 (H27) 年	目標値 2030 (H42) 年
路線バスと乗合タクシーの利用者数 (人/年)	1, 4 0 7, 0 0 0	1, 4 0 7, 0 0 0

## (2) 期待される定量的な効果

定量的な目標の達成により、期待される定量的な効果を以下のとおりとします。

### ●住みやすさの満足度の割合

- ・居住誘導区域の人口密度の維持、都市機能誘導区域の都市機能の充実、ネットワーク（公共交通）の維持により、拠点集約型都市構造への再編が進み、市民の「住みやすさの満足度」が高まることを期待される効果とします。
- ・具体的には、総合計画策定時に実施する市民意向調査の「あなたにとって藤枝市は住みやすいですか」における「大変住みやすい」、「やや住みやすい」の割合を合算した割合を把握し、期待される効果とします。

	現況値 2014 (H26) 年	目標値 2030 (H42) 年
住みやすさの満足度の割合 (%)	78.7	85.0